

荒川三山と赤石岳

登山した年月日：1996年（平成8年）8月10日（土）～13日（火）

- 8/10 東京 7:15=(特急東海1号)=9:34 静岡 9:53=(静鉄バス)=12:57 八木尾又-(迂回徒歩)-八木尾又上 15:00
=(東海フォレスト・リムジンバス)=16:30 榎島ロッジ(標高1200m)に泊
- 8/11 ロッジ 5:00-7:45 清水平-8:35 蕨段三角点-9:50 駒鳥ノ池-10:35 千枚小屋・昼食 11:40-12:30 千枚岳
2880m-13:25 丸山 3032m-14:00 栗沢岳 3141m 14:20-15:30 中岳 3083m 16:20-ライチョウに会う-前岳
3068m-17:10 荒川小屋に泊
- 8/12 荒川小屋 5:12-7:05 小赤石岳 3081m 7:20-7:45 赤石岳 3120m **デッサン(帰宅後最終仕上げ)** 8:40-8:55
分岐点-10:20 富士見平・昼飯 11:15-11:45 赤石小屋・そう麺を戴く 12:20-15:25 榎島ロッジに泊
- 8/13 榎島ロッジ 8:00=(東海フォレスト・リムジンバス)=9:30 八木尾又上-10:10 八木尾又-10:40 田代・民
宿でお蕎麦を戴く 13:50=(静鉄バス)=16:30 静岡 17:23=(特急東海4号)=19:42 東京

費用：電車賃12,000、バス代6,000、山小屋宿泊費19,000、飲物3,300、土産2,800、合計43,100円



今回の山行は、学生時代の元気な時でも敬遠した南アルプスの南部 奥深い
荒川三山、赤石である。

然しながら、交通手段や山小屋の整備で、中年になった私でも十分に楽しめるよ
うになったのである。

先の木曾駒ヶ岳登山で同行した大町同期入社の下家君に声を掛けたら是非とも言
うことで、2人での登山となった。

彼はここ3年、中年の恋狂いなのか塩尻を始点として毎週登山をしている。

さて、登山計画書も私が先ず作り、下家君は更にワープロ化して送ってきた。登山口で早速届けた。

今回の私の登山目的は

(1) 新調したカメラで高山植物を写す

(2) 最近続けている水彩画を画く

の二点である。

両者ともそれらは自分の机の上に置かれて本人だけが後日楽しむもので、世の他の多くの人々の眼に触れることはない、ある意味では空しいものである。

高低差2千米は、富士山の3千米に次ぐもので、久し振りに、アルバイト量が大きい部類である。

素材の発達により、登山用具も大分軽くなり、出掛ける前に計量したら10kgであった。以前なら20kgをこえていたであろう。

3泊4日の行程で、登山基地の榎島で2泊となってしまった。

当初の登山計画書では、

初日 榎島小屋

2日目 千枚小屋

3日目 赤石小屋

4日目 榎島経由

であったのが、予想以上に順調であったため2日目は、千枚と赤石の間地点の荒川小屋まで足を伸ばし、3日目は余裕を持って下山して、出発点の榎島ロッジに宿泊したのである。

何とそこは水洗便所やお風呂が備わっているという贅沢さでついつい魅かれてしまったか。

静岡から榎島（標高1072米）までバスで4時間半、そして40分の徒歩を要する奥深いところなのである。

このように長いアプローチは、日本では南アルプスが断トツであろう。

よくも前衛の峰々が続くものだと感じた。

昔の登山者は、重い荷物を背負って、大井川の源流を長い時間を掛けて歩き続けたのであろう。

想像を絶するものである。

私たちは事前に『山と溪谷』“1996.8月号”の特集【中高年登山者のための夏山企画 山でバテないために】をお互いに良く読み、理解し、実際に応用したので、結果的には元気に登り、元気に下山できたのではないだろうか。

下家君も大いに得るところがあったのではないだろうか。

(完)